

鳶野鳥の森散策路マップ

1.

散策路を歩く

環状になっているメインの散策路は全長約 3 キロメートルで、ゆったりとしたペースで歩いて約 90 分でまわれます。全行程を歩きたくない方は、鳶沼までのなだらかな 500 メートルの道を往復するのがおすすめです。全行程を歩くコースでは、この土地が湿地から森へ、そして主にトチノキとウバメガシが生える湿った環境から完全なブナ林へと移行する様子が良く分かります。瓢箪沼側の散策路起点（駐車場の反対側にある売店のすぐ右側）から歩くと、散策路の最後の方で最も見事な鳶沼の景色を見ることができます。

2.

荘厳な森林地帯

鳶の森の大部分を構成している二種の樹木と二種のつる植物を見分けてみましょう。ブナの木は幹が滑らかで薄い灰色をしているのに対し、トチノキは樹皮が粗く黒っぽい色をしています。この森はおそらく林冠の上の日光に向かって伸びている多くの鳶にちなんで名付けられました。ヤマブドウは黒色で葉が大きく、野ブドウに似た紫色の実の房をつけます。サルナシは薄灰色から灰褐色です。その小さなキウイフルーツのような実は、ヤマブドウと同様、秋に実ります。どちらも成長すると樹皮が剥がれます。

3.

地下水

水は鳶の森の発展において重要な要素です。地下岩盤が地表に非常に近いため、地下の水路がいたるところにあります。散策路の特定の箇所では、決して乾燥することがない湿った地点が見られます。実のところ、林床には完全に乾いている部分はほとんどありません。立ち止まって静かに耳をすませれば、しばしば様々な水源からの水が森を通り抜ける幽かな音が聞こえます。

4.

個々の沼

散策路沿いの沼は、狭い範囲に集まっているにもかかわらず、それぞれ独自の特徴を持っています。各沼の違いが分かるか見てみましょう。

- 瓢箪沼（ひょうたんぬま）：かつてはひょうたん型だったこの沼は、環境が湿原へと移行するにつれ小さくなっています。
- 菅沼（すげぬま）：この人工の沼の西端は、乾いた土地へと移行する前の段階の木が点在する湿地です。

- 長沼（ながぬま）：この沼の大きさは季節や降雨に応じて拡大縮小します。
- 月沼（つきぬま）：森に囲まれたこの小さな沼は湧水を水源としています。
- 鏡沼（かがみぬま）：月沼から水を引いて作られたもうひとつの人工沼です。水が流れ出ている場所の近くにある橋からはイワナを見るのに良いスポットです。
- 鳶沼（つたぬま）：六沼の中で最も大きなこの沼は、この地域の景観を作った岩屑なだれの発生源である赤倉岳の景色を望むのに最高の場所です。

5.

地殻変動

鳶の森地域の景観は、30万年前から80万年前の間の火山活動によって形成された南八甲田山系の七峰のひとつである赤倉岳で発生した岩屑なだれによって作りだされました。1万5千年から10万年前の間のある時、赤倉岳の東側が崩壊し、なだれで運ばれた岩石や砂利、火山灰が谷全体を変容させました。

森全域、特に菅沼と長沼の間では大きな溶岩と火砕岩が見かけられます。これらは赤倉岳を形成した火山活動の際に形成され、岩屑なだれによって現在の場所に運ばれたものです。

6.

野生動物を観察する

林床から林冠まで、鳶は野生動物の楽園です。鳥を見つけるには、鳥の動きに注目し、鳴き声に耳を傾けましょう。常に周囲に気を配りましょう。何か自分が見ていると感じたら、それはおそらく正解です。多くの場合、それはカモシカというヤギーアンテロープ類の一種で、この動物は人間から逃げることなく、大抵立ち止まってじっと眺めてきます。また、ツキノワグマもこの地域に生息しています。

7.

小さな世界

散策路を歩く際は、周囲（足元にまで）に広がっている素晴らしい世界をお見逃しなく。道中、木の幹や散策路の土手、橋、岩などいたるところにコケや地衣類、キノコが生えています。ルーペを使えば、その世界をより身近に感じ、これらの生命体を隅々まで観察することができます。例えば、ブナの木の幹をよく見てください。まだらになっている部分は灰色の樹皮の模様ではなく、その滑らかな表面に生える地衣類です。

鳶の森の自然暦

1月

- 雪にテンやキツネなどの動物の足跡がはっきり残っているのが見られる（3月下旬まで）。

2月

- 沼の水面が凍結する最も寒い月。
- 白い雪にカワゲラなどの昆虫が見られる。
- カワガラスがさえずり始めるのが聴こえる。

3月

- シジュウカラなどがさえずり始めるのが聴こえる。
- オシドリが沼に姿を見せる。

4月

- 湿原にミズバショウが咲く。
- ヤマアカガエルが産卵する。
- キクザキイチゲなど早春の花が咲き始める。

5月

- ブナの木が花を咲かせる；森の緑が最も鮮やかになる。
- 月の半ばまでが野鳥観察に最適な時期。
- エゾハルゼミが鳴き始める（7月まで）。

6月

- アカショウビンがさえずり始める（瓢箪沼と菅沼）。
- モリアオガエルの産卵期が始まる（瓢箪沼）。

7月

- エゾアジサイの花が満開になる。
- 複数の種のホタルが姿を現す。

8月

- 暗闇で光るツキヨタケが見られる（10月まで）。
- 長沼にトンボが姿を現す。
- 下旬にサラシナショウマの花が咲く。

9月

- ブナ、トチノキ、ホオノキが実を落とし始める。

10月

- 紅葉のピーク
- 2種のツル植物、ヤマブドウとサルナシの実が見られる。
- 秋のガが姿を見せる。

11月

- 色づいた葉と初雪：2つの季節の粋が同時に見られる。
- オオハクチョウやキンクロハジロなど冬の鳥が鶯に飛来する（長沼、鶯沼、菅沼）

12月

- ハイヌガヤの緑が雪に映える。
- 木々の根元の雪は根雪となる。

冬季閉鎖

11月下旬から5月上旬までは豪雪のためビジターだけで散策路に立ち入ることができません。しかし、ガイドツアーがご利用になれます。